

<p>主な意見</p>	<p>(1) 令和7年度浜田市地域包括支援センター事業計画（変更）について （意見）地域包括支援センター本センターの保健師について、現在1人体制のようなので相談してもすぐ対応できない時がある。今の体制について伺う。 （回答）本所に2名保健師を配置しているが、1名は育児休業中で、9月に復帰予定である。保健師分野の相談内容でも、職員には主任ケアマネ、社会福祉士等がいるので、それぞれの職種が対応し、保健師と連携して対応したい。保健師が1人だからと遠慮せず、ぜひ相談いただきたい。</p> <p>(2) 令和6年度地域支援事業の実績報告について （意見）生活支援体制整備事業について、4名の職員の担当範囲を伺う。 （回答）4名の職員の配置は、ペアになって支所は旭、弥栄、三隅、金城そして浜田の対応をしている。 （意見）第2層協議体の開催が実績なしとあるが、市の直営になって事業が見えない。どのように市民に周知しているか。直営のメリットがあれば教えてほしい。 （回答）直営に戻った段階で、第1層協議体については、現在高齢者の事業を展開されている移動販売業者の方等に委員をお願いしている。第2層協議体については、社協に委託していた時には、生活圏域でそれぞれ行っていたが現在は開催していない。現在は、第2層協議体を地域ケア会議に移行しており、長浜地区と国分地区に新規の地域ケア会議が立ち上がっている。生活支援コーディネーターは高齢者の生活支援のツールとしての役割を持っている。また、地域ケア会議は包括ケア4事業の中に位置付けられていることを踏まえ、行政の中で高齢者の生活支援のツールとして役割を持っている生活支援コーディネーターとまちづくりコーディネーターの横の連携で役割分担を再度見直すことが重要だと考える。 （意見）成年後見制度について、相談件数が以前より減っているが、困っている方がおられなくなったと理解してよいのか。他の機関が申し立てをするようになったのか。 （回答）直接市に相談する方のほか、包括支援センター、ケアマネ等に相談する方がおられる。市に相談があれば、その方が市長申し立ての対象の方なのかどうか面接を行い、対象である方は、市で市長申し立てをしている。 （意見）実績額の人件費が大きく変わっている理由を伺う。 （回答）実績額については、全ての事業費の支出を計上し、予算の範囲内で、事業に係る人件費を計上している。総事業費は予算額を超えているので、認められた予算内で、人件費を地域支援事業に充当している。 （意見）実績の数字が大きく違うのは、支援事業のあり方が変わったのか。 （回答）令和5年度までは、事業費に対して人件費を案分で計上していた。令和6年度は職員の業務量に基づき、人件費を計上している。 （意見）包括支援センターの相談件数が令和6年度は令和5年度と比較すると倍以上となっている。業務量が増加しているが、予算額に対して委託料は下がっている理由を伺う。 （回答）昨年においては育児休業の職員が2名おり、職員募集をされたが1名は欠員だったため、1名分の人件費の返還をしていただいた。 （意見）職員はいないが業務量は増加している状況で人件費を返還しないといけないのか。</p>
-------------	---

(回答) 職員の欠員については、人件費の返還をいただいている。包括支援センターの要望を受け、令和7年度については人件費の見直しを行っている。

(意見) ボランティア等の人材育成をすることはすごく大切なことで、地域で関わる方々のスキルがないというのが問題となっている。特にボランティアを育成することは、地域の支えになりとても大事な事業で評価をしている。地域ケア会議も重要で、事業計画の中で地域課題など特に発出すべき課題を伺う。

(回答) 地域課題の1点目は、認知症が介護保険の新規申請で一番多い疾患名であり、どこの圏域でも認知症の方の対応、それから認知症の方が増えていることが課題となっている。

2点目は、骨折をされた方、特に圧迫骨折をされた方が救急車で運ばれ、手術適用ではない場合は、入院せずに在宅に帰ることになる。骨折して入院する施設や病院はあまりなく、介護等在宅サービスの充実が課題となり、地域の中で理学療法士、作業療法士などの専門職が必要になっている。

3点目は、8050問題ということで、認知症の親に障害を持つ子どもに関するケースが増えている。これについては、かなりのスキルを要求されるので、関係機関と連携しながら支援方針を出し、地域ケア会議の中で事例を出しながら、専門職や地域の役割を担っていくことを位置付けている。

(意見) 地域ケア会議については、地域課題を明らかにするのが目的ではなく、国は4つ程度地域課題の整理をしているので、地域課題をどう解決していくかまでを地域ケア会議で協議するとなっている。その課題を整理するだけでは、地域ケア会議ではないということを強調したい。

(補足) 地域ケア会議の成果については添付資料のとおり

(意見) 100歳体操の補助について伺う。

(回答) 100歳体操を広げていただく目的で、100歳体操を立ち上げたグループへの補助として去年から開始した事業である。

(3) 令和6年度浜田市地域包括支援センター運営事業報告について

(意見) 相談者の内訳が本人家族、次はケアマネージャー、次は行政となっているが、一番多い相談内容は何か伺う。

(回答) 受託事業報告というところで、高齢者福祉サービスに関すること、高齢者虐待に関すること、成年後見に関すること等があるが、一番多い相談内容は、その他である。この内訳は改めてお伝えする。

(4) 令和6年度浜田市地域包括支援センターの評価について

(意見) 資料4のところの実施できなかったもので、相談事例の終結条件を定めているかどうかについて、他のセンターで終結条件を定めているところがあれば教えていただきたい。どこまでを支援するのかを工夫することは、特に困難ケース等に関しては重要であり、先が見える、変化が見えると職員のやる気にも繋がってくると思う。

(回答) 質問の内容は市の評価に位置付けているが、他市の終結条件は確認していないので、確認後情報提供する。

(意見) 資料の表の平均値の出し方が違うのではないかと。

(回答) 後日資料を訂正して送付する。

(補足) 訂正資料は「訂正後包括・市評価まとめ」のとおり